

製品名: ATP5F1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07328**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 28kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | ATP5F1 |
| 別名 | ATP5F1; ATP synthase subunit b; mitochondrial; ATPase subunit b |
| 遺伝子 ID | 515.0 |
| SwissProt ID | P24539 |
| 免疫原 | ATP5F1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 130-210 |

背景

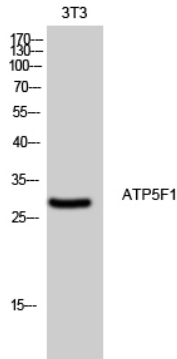
この遺伝子は、ミトコンドリア ATP 合成酵素のサブユニットをコードします。ミトコンドリア ATP 合成酵素は、酸化的リン酸化反応中に内膜を横切るプロトンの電気化学的勾配を利用して ATP 合成を触媒します。ATP 合成酵素は、可溶性の触媒コアである F1 と、

プロトンチャンネルを構成する膜貫通成分である Fo という、2つの連結した多サブユニット複合体で構成されています。ミトコンドリア ATP 合成酵素の触媒部分は、5つの異なるサブユニット (α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ) が、 α 3つ、 β 3つ、および他の3つを代表する1つの化学量論で組み立てられています。プロトンチャンネルは、9つのサブユニット (a、b、c、d、e、f、g、F6、および8) を持つと考えられています。この遺伝子は、プロトンチャンネルの b サブユニットをコードします。 [RefSeq 提供、2008年7月]、機能: ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1) と、膜プロトンチャンネルを含む F(0) の2つの構造ドメインで構成され、これらは中央茎と周辺茎によって連結されています。触媒作用中、F(1) の触媒ドメインにおける ATP 合成は、中央茎サブユニットの回転機構を介してプロトン輸送と結合しています。複合体 F(0) ドメインと周縁茎の一部であり、固定子として機能し、触媒 $\alpha(3)\beta(3)$ サブ複合体とサブユニット a/ATP6 を回転要素に対して静止状態に保つ。類似性: 真核生物 ATPase B 鎖ファミリーに属する。サブユニット: F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1) と膜プロトンチャンネルである CF(0) の2つの構成要素からなる。CF(1) には、 $\alpha(3)$ 、 $\beta(3)$ 、 $\gamma(1)$ 、 $\delta(1)$ 、 $\epsilon(1)$ の5つのサブユニットがある。CF(0) には、 α 、B、C の3つの主要サブユニットがある。

研究分野

酸化的リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

画像データ



1: 500 希釈の ATP5F1 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析